

⑤ ウミガメ類を指標種とした重要地域(沿岸域・海洋域・島嶼地域)

ウミガメ類の上陸地ごとの上陸数及び産卵数に関し、本構想の検討時において利用可能な定量的調査資料としては、環境省自然環境局生物多様性センター「海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(ウミガメ生息調査) 報告書」(平成 13(2001)年 3 月)、環境省自然環境局生物多様性センター「浅海域生態系調査(ウミガメ生息調査) 報告書」(平成 14(2002)年 8 月)及び亀崎直樹・通事祐子・松沢慶将編集「日本のアカウミガメの産卵と砂浜の現状」(日本ウミガメ協議会、2002 年)等がある。2008 年に産卵が確認された主な海岸と産卵回数については図 25 の情報がある。

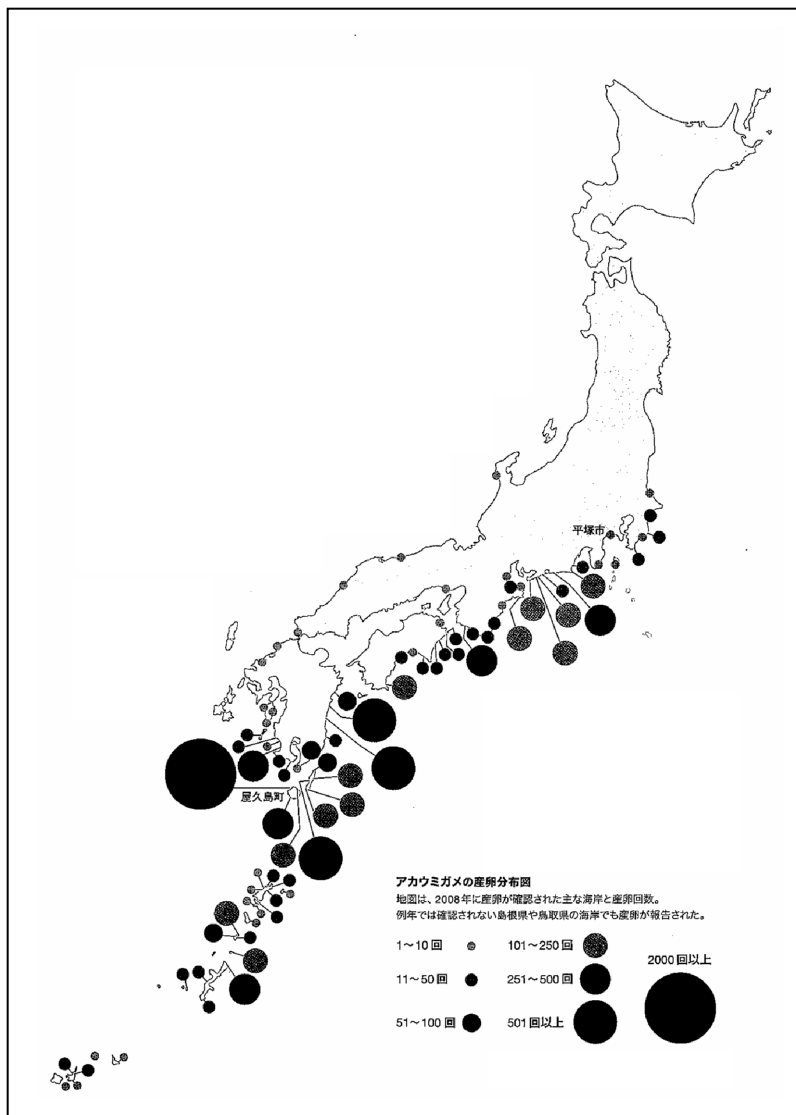


図 25 アカウミガメの産卵分布図(2008 年)

出典：日本ウミガメ協議会(データ及び地図製作)、ナショナルジオグラフィック日本版第 15 巻第 2 号(2009 年)

環境省「海域自然環境保全基礎調査 海棲動物調査(ウミガメ生息調査)」では、調査に当たり、1970 年以降の年ごとの延上陸頭数について記録するとともに、上記記録のうちの

最近 5 年間の中の最高値を把握するとともに、上陸頭数により、「101 頭以上=A、11～100 頭=B、1～10 頭=C」のように区分するものとしている。

ウミガメ類を指標種とした生態系ネットワークの図化に必要な重要砂浜の抽出に当たっては、「上陸数は目安になるが、上陸数が 101 頭に満たないものの、人工構造物がない自然海岸である」といった、砂浜の自然度等の点も考慮する必要がある。

環境省では、自然環境データを継続的に収集・蓄積することにより生物種の減少など、自然環境の移り変わりをいち早く捉える「モニタリングサイト 1000（重要生態系監視地域モニタリング推進事業）」を実施しており、砂浜については、2000 年以降の上陸情報等をもとに、図 26 に示す基準にもとづき、表 6 に示す調査サイトをウミガメ調査サイト(砂浜)として選定し、平成 16 年度より NPO 法人・日本ウミガメ協議会の協力のもと、ウミガメ類の上陸・産卵状況の情報を収集している。

- | |
|--|
| ①全国のウミガメ産卵地への均等配置 |
| ②産卵規模の大きな産卵地への配置 |
| ③長期に亘り産卵上陸調査が継続されている砂浜への配置 |
| ④産卵期を通じて毎日の痕跡調査が近年継続的に行われており今後も継続の可能性が高い砂浜への配置 |
| ⑤環境保全度が高い（砂浜内に人工構造物がほとんど存在しない）砂浜への配置 |

図 26 モニタリングサイト 1000 ウミガメ調査サイト配置基準

出典：環境省自然環境局生物多様性センター資料

表 6 モニタリングサイト 1000 におけるウミガメ調査サイト(砂浜)

調査サイト名	都道府県	調査サイト名	都道府県
西表島 ウブ浜	沖縄県	大岐海岸	高知県
西表島 サザレ浜	沖縄県	入野浮鞭海岸	高知県
黒島 西の浜	沖縄県	元海岸	高知県
石垣島 伊原間牧場	沖縄県	大里松原海岸	徳島県
宮古島 吉野海岸	沖縄県	日和佐大浜海岸	徳島県
座間味島 ニタ浜	沖縄県	蒲生田海岸	徳島県
沖縄島 大度海岸	沖縄県	南部千里浜	和歌山県
沖縄島 謝敷海岸	沖縄県	新宮王子ヶ浜	和歌山県
奄美大島 嘉徳浜	鹿児島県	井田海岸	三重県
奄美大島 大浜	鹿児島県	広ノ浜	三重県
屋久島 田舎浜	鹿児島県	黒ノ浜	三重県
屋久島 前浜	鹿児島県	日出・堀切海岸	愛知県
屋久島 四つ瀬浜	鹿児島県	赤羽根海岸	愛知県
屋久島 一湊浜	鹿児島県	豊橋海岸	愛知県
屋久島 栗生浜	鹿児島県	湖西白須賀海岸	静岡県
種子島 長浜	鹿児島県	御前崎海岸	静岡県
吹上浜	鹿児島県	相良海岸	静岡県
志布志湾	鹿児島県	小笠原父島 初寝浦	東京都
日南海岸	宮崎県	小笠原父島 北初寝浦	東京都
宮崎海岸	宮崎県	小笠原南島	東京都
延岡海岸	宮崎県		

出典：環境省自然環境局生物多様性センター資料(モニタリングサイト 1000 におけるウミガメ調査サイト(砂浜調査サイト)、平成 20 年度終了時点)

以上の検討から、全国エコ・ネットの現況の図化に当たり必要なウミガメ類の重要な上陸・産卵砂浜として、表4に示すモニタリングサイト1000のウミガメ調査サイトを利用することが、現時点では適切と考えられた。

また、現況図の作成に当たっては、アカウミガメが移動に利用すると考えられている黒潮を含む海流、アカウミガメのおおよその回遊(成長回遊、季節回遊)ルート(概念図)を併せて示した。アカウミガメは、日本の海岸線でふ化したのち、北太平洋海流によって広く北太平洋に分散される。その後、日本近海に戻ってきたアカウミガメは日本の南部から東部にかけての海域で生育、成熟し、東シナ海の大陸棚に比較的定着して生活し、数年おきに、黒潮を利用するなどして、南日本の沿岸に繁殖回遊をすると考えられている(亀崎直樹「ウミガメ類の保全と日本の立場」(第4回生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会(2006年12月4日)資料)。

上記、東シナ海の大陸棚については、多くのアカウミガメが、同海域に、長期間滞在していることが、人工衛星と電波発信機を用いた近年の調査(中島ほか(2007年))により、確認され、これらの海域が、アカウミガメの主な摂餌海域となっていることが示唆されている(図27)。このことから、東シナ海の大陸棚を、アカウミガメの主な摂餌海域として併せて示した。

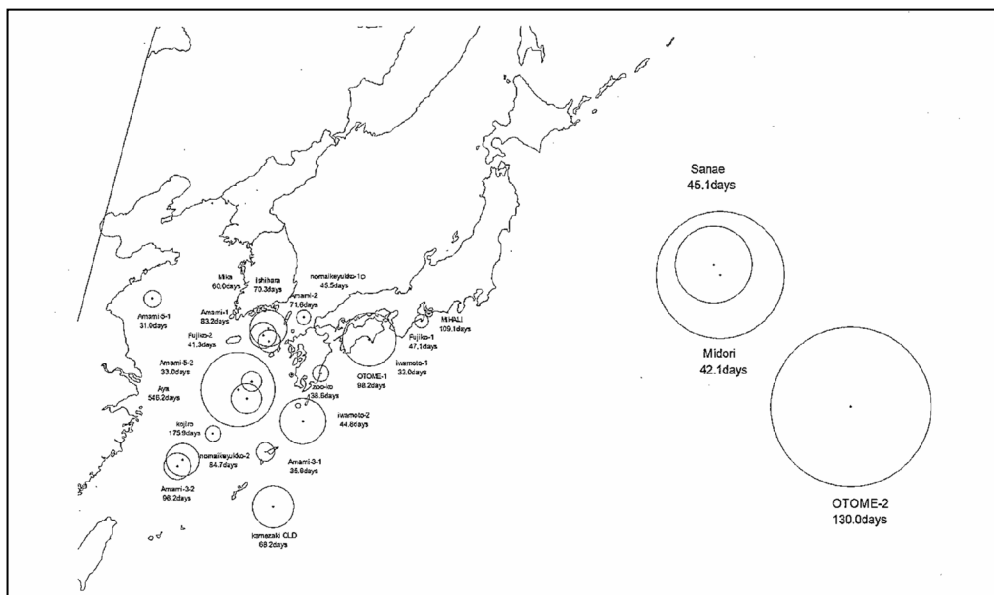
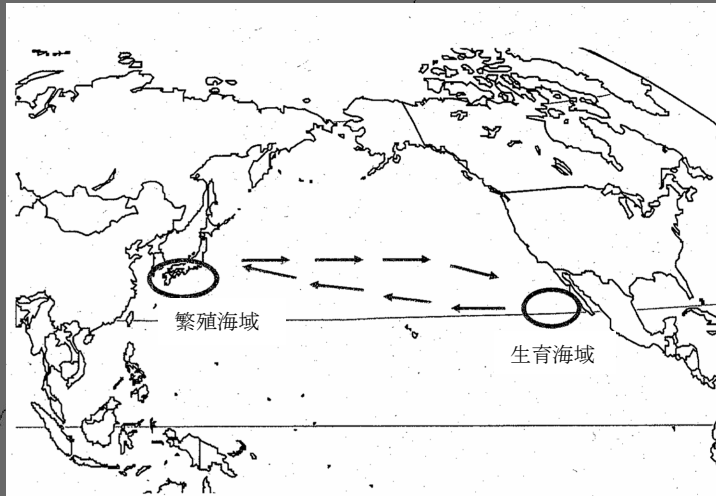


図27 日本近海におけるアカウミガメの長期滞在海域

出典：中島悠介、亀崎直樹・石原孝、水野康次郎・松沢慶将(2007):日本近海におけるアカウミガメの回遊経路と長期滞在海域の分析」.,第18回日本ウミガメ会議(種子島会議)日本ウミガメ誌 Volo.18.

主に関係する生態系等のタイプ 砂浜、海域
 全国レベルでみたウミガメ類の主な上陸・産卵地域 アカウミガメ ● アオウミガメ ●
 アカウミガメの回遊ルート (概念図) →
 アカウミガメの主な採餌海域 ○



アカウミガメの繁殖海域・生育海域
 出典：亀崎直樹「ウミガメ類の保全と日本の立場」(第4回生物多様性国家戦略の見直しに関する懇談会(2006年12月4日)資料)

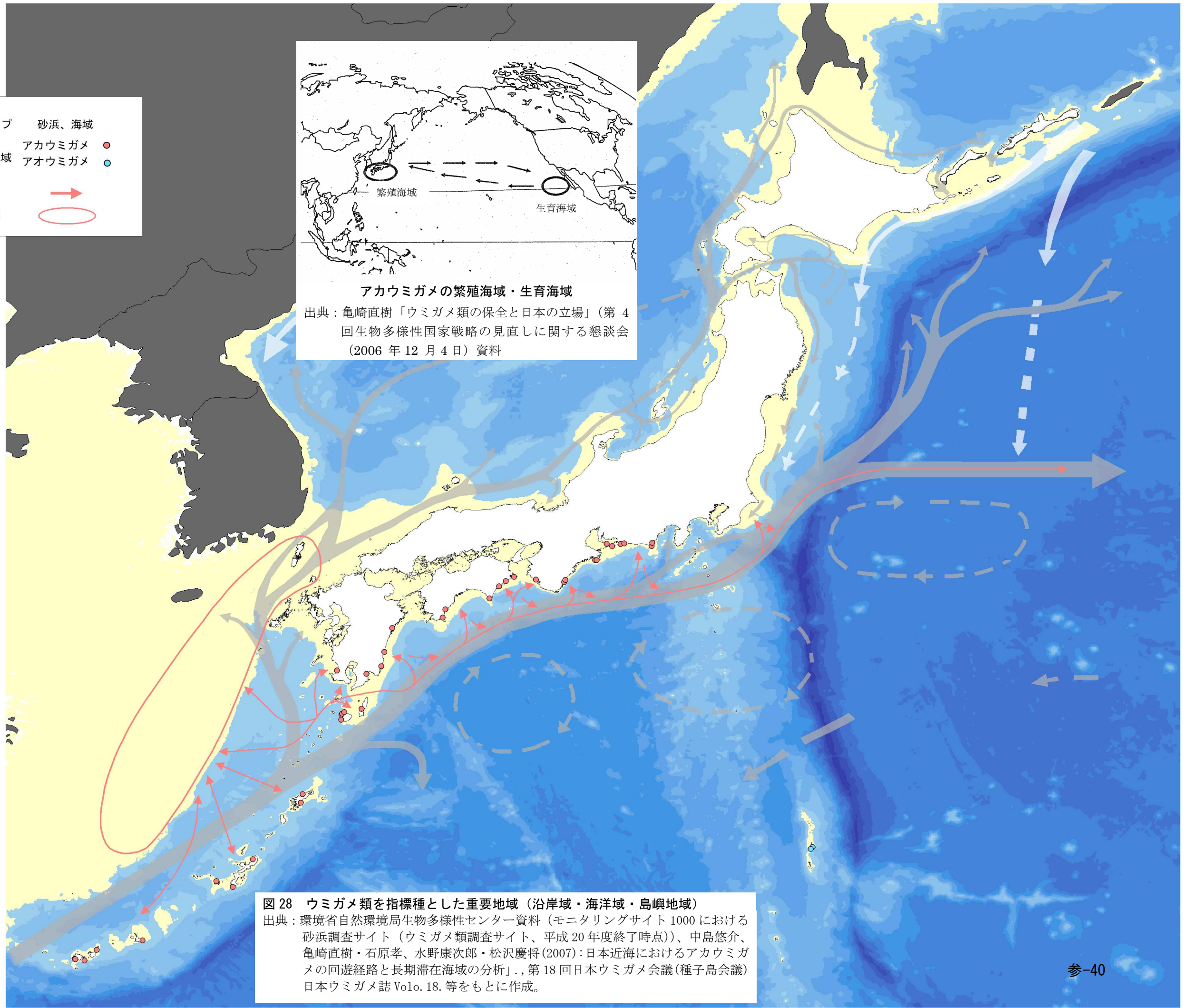
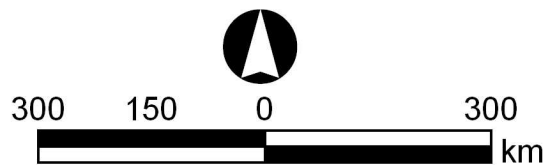
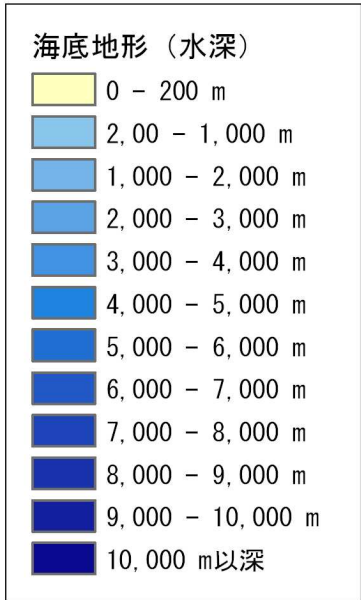


図28 ウミガメ類を指標種とした重要地域 (沿岸域・海洋域・島嶼地域)
 出典：環境省自然環境局生物多様性センター資料 (モニタリングサイト1000における砂浜調査サイト (ウミガメ類調査サイト、平成20年度終了時点))、中島悠介、亀崎直樹・石原孝、水野康次郎・松沢慶将(2007)：日本近海におけるアカウミガメの回遊経路と長期滞在海域の分析」., 第18回日本ウミガメ会議(種子島会議) 日本ウミガメ誌 Vol. 18. 等をもとに作成。